

令和8年度 / 予算と市の財政状況について紹介します

問 財政課 ☎ 086-803-1146

市民の暮らしと市の未来を支える「予算」。令和8年度の予算は、新しい総合計画が掲げる「“わくわくする” 桃太郎のまち岡山」の実現を目指す予算となっています。

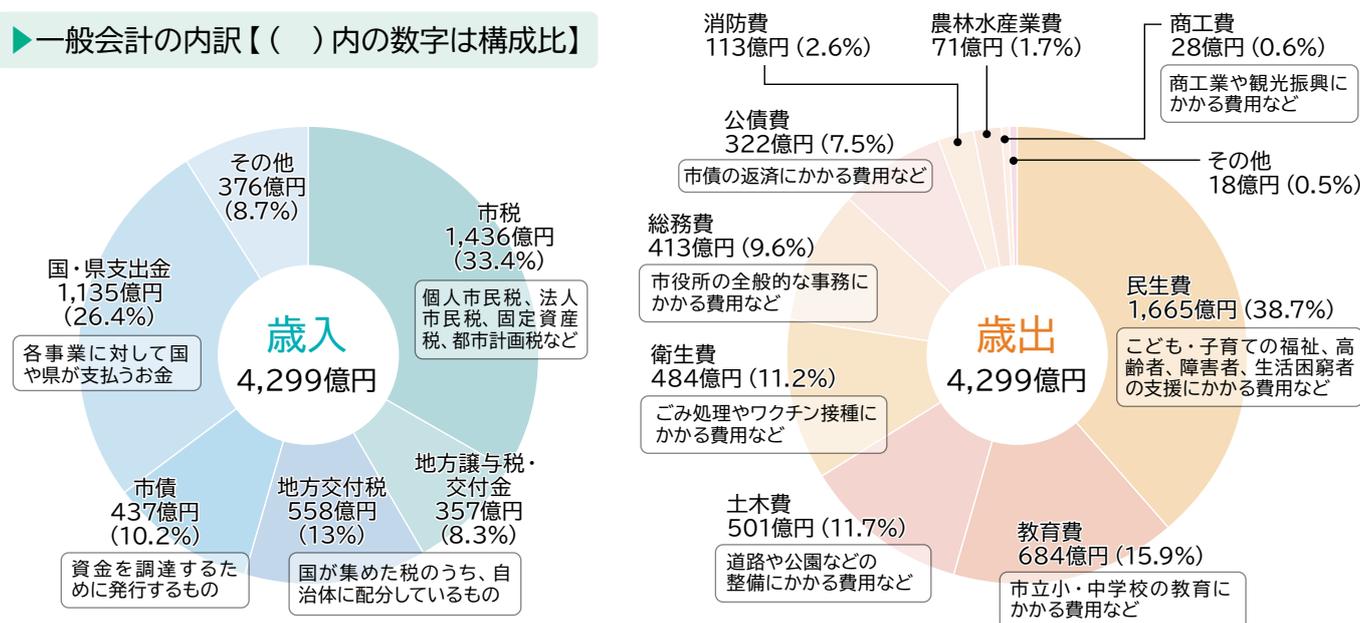
このページでは、今年度の予算の特徴や市の財政状況について解説していきます。



Q. 令和8年度の当初予算はどうなっているの？

「歳入」は市の収入のことで、主に市民や企業からの税金、地方交付税、市債などから構成されます。一方の「歳出」は子育て・教育、福祉、環境など市民生活に直結する行政の活動に対する支出です。ここでは一般会計の内訳をご紹介します。

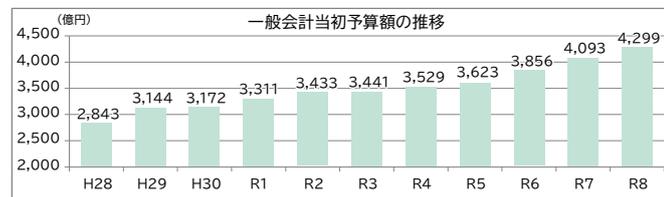
▶ 一般会計の内訳【()内の数字は構成比】



▶ 当初予算の規模

一般会計は、**10年連続過去最高** 4,299億円
(対前年度+205億円、+5.0%)

市税収入は、**5年連続過去最高** 1,436億円
(対前年+36億円、+2.6%)



今年度増えた主なものは次のとおりです。



■ 一般会計歳出で増えた主なもの

- ごみ処理施設整備など衛生費 +175億円
- GIGA端末更新、中学校体育館空調整備、新岡山学校給食センター整備、学校トイレ洋式化など教育費 +84億円
- こどものための教育・保育給付費、障害者給付費など民生費 +12億円

■ 市税収入で増えた主なもの

- 雇用者所得の改善等による個人市民税 +26億円

10年間でどの分野が増えているの？

10年前の平成28年度と比べて、子ども・子育て支援に関する児童福祉費は1.7倍、教育費は1.7倍、商工費は1.6倍になっています。

※教育費は平成29年から権限移譲された教職員人件費を除いた額の伸び率



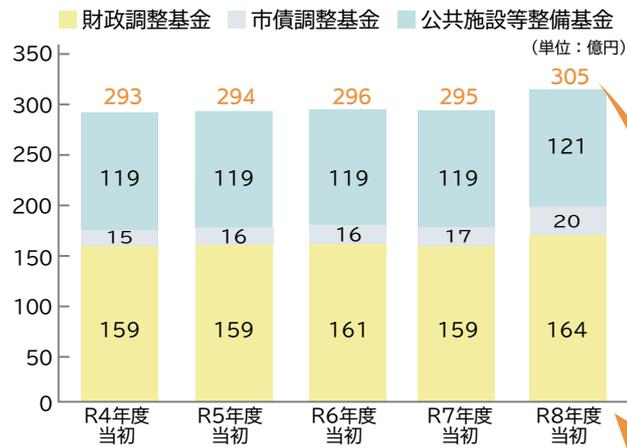


Q. ところで、岡山市の財政って大丈夫なの？

家計をやり繰りするのと同じように、市でも収入の状況を見極めた上で、有利な市債（借金）や備えてきた基金（貯金）を活用し、財政運営しています。

▶ 基金とは？

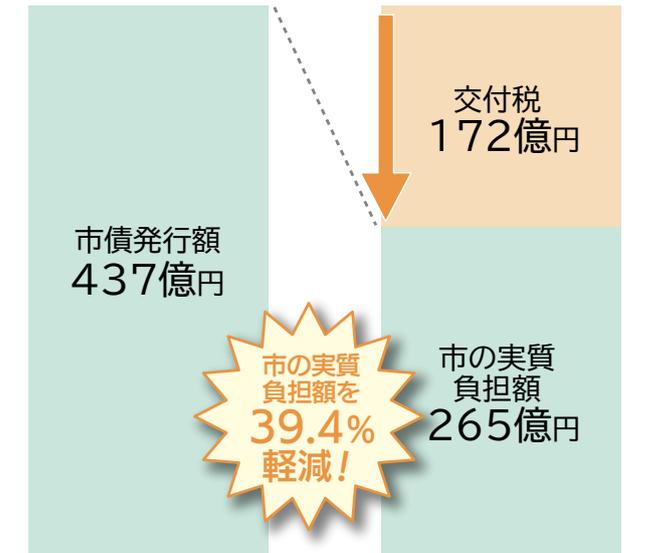
「基金」は、市の貯金額にあたるお金です。あらゆる事態に備えて迅速かつ機動的に対応できるよう、約300億円の基金残高を継続的に確保しています。



基金残高は、一般的に適正といわれる標準財政規模10%~20%の水準を確保できています。

▶ 令和8年度の市債発行のポイント

令和8年度の市債発行総額は437億円。合併推進債、緊急防災・減災事業債など、市債の一部に国からの交付税をあてられる有利な市債を活用することで、実質的な市の負担を抑えました。



Q. 「有利な市債」ってどういうもの？



市債の中には、借入金の一部に交付税を措置してくれるものがあり、実質的な市の負担を軽減できます。

こんな事業で活用しています！

▶ 路面電車乗り入れ事業

公共交通の利便性を向上させるため、岡山駅前広場への乗り入れ事業を進めています。(令和8年度末供用開始)



乗り入れ事業費の負担割合



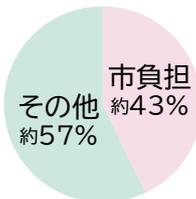
▶ 新庁舎整備事業

現在の本庁舎は老朽化が進み、耐震基準も満たしていないため、新庁舎の整備を進めています。



新庁舎外観イメージ(2期工事完成後)

新庁舎整備費の負担割合



お得な制度を活用して上手にやり繰りしているのね！

引き続き、有利な市債や基金の活用、経常的経費の見直しなどにより、健全な財政の維持に努めていきます。

